発達を見る眼をゆたかに、おおらかに

第6回 友だちの思いを考え感じはじめる

鳥取大学
寺川志奈子

てらかわ　しなこ／鳥取大学地域学部。研究テーマは「子どもの自我、自己、および社会性の発達と教育的支援」について。共著に『自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1　子どもの「ねがい」と授業づくり』(クリエイツかもがわ）など

友だちを誘って遊ぶ

4歳になると、「いっしょに色水つくろう」「ブランコしよう」などと言って、自分から言葉で友だちを誘って遊び始める様子がみられるようになります。

ある日、遊戯室の舞台で4歳児クラスの女児3人がYOASOBIの曲に合わせてダンスを踊っていました。舞台下からあこがれの眼で見つめている3歳児たちの視線も意識しながら、それぞれにかっこいいポーズをとったりしています。その時、遊戯室の入口にクラスの友だちが入ってきました。すると、踊っている3人の内のひとりが見つけて、舞台を降りてその子のところへ猛ダッシュ。「一緒に踊ろう」と手をつないで、2人は走って舞台にあがって踊り始めます。そして次の友だちが遊戯室に入ってくるとまた走って迎えに行って、手をつないで一緒に舞台に戻りました。こうして女児5人チームのダンスの舞台となりました。5人はアドリブでみんなで手をつないで輪になって閉じたり開いたりするポーズもやってみせ、息もぴったり。こんなふうに、自分たちで友だちとつながって遊ぶ姿がみられる4歳児です。

みんなが楽しくなる〝ルール〟

一方、保育者のリードで始めた鬼ごっこでは、子どもたちのルールの理解に幅があったり、ルールよりも思いが先に立ったりして、4歳児ならではの鬼ごっこの様子がみられます。たとえばオニになるのが嫌で、タッチされそうになったら泣き始めたり、あるいは「タッチするなー」と逆にオニを追いかけ始めたりする子どもがいます。反対にオニになるのが楽しくて、ずっとオニをやっていたくて、オニの構えはするけれど、なかなかタッチしようとしない子どももいます。

保育者に「ひとりばっかりがオニだと、ほかのお友だちがひまになるから、いろいろな子にタッチしよう」と促されてようやくタッチしても、走るのが遅いこともあって、またすぐにオニになってしまいます。やさしい友だちがわざとゆっくり走って当たってくれて「タッチしたから替わるんだよ」と言われると、オニを替わらないといけなくなったことにシュンとして、お茶を飲みにいってしまいました。ほかの子どもたちはその子の気持ちにあまり気づいていないようでした。本気の鬼ごっこをみんなが楽しいと思えるまでには、まだまだ時間をかけて、あーだこーだのやりとりを経ながら、ルールを共有する経験を積みあげていく必要がありそうです。

ところで、この4歳児の〝盛りあがりにくいルール遊び〟は、子どもにとって〝こんなことはしないでおこうルール〟になってしまっていて、そのルールに乗っていけない、あるいは逆にそのルールに縛られている子どもたちが楽しめなくなっているのではないか。それよりは、子どもが〝今日もしたいな、好きな遊び〟と思えるような、みんなが参加したくなるルール遊びを仕掛けていくことも大切ではないか、という意見が保育者同士の話し合いの中から出されました。そして次のような、4歳児が〝やりたくなるルール遊び〟のいろいろなアイデアが提案されました。

走ることに苦手さをもっている子どもがいるのなら、走らない鬼ごっこにすればよいのではということで、たとえば、おしり歩き、ワニさん歩き、カエル跳び鬼ごっこなら、みんなが楽しめるかもしれません。また、子どもが〝やりたいこと〟をルールにしてみるのも大切にしたいアイデアです。たとえば、オニにタッチされたらバナナになるバナナ鬼。ほかの逃げている友だちに皮をむいてもらったら自由になれます。これならタッチされるのがうれしくなるのではないでしょうか。「ぼくはバナナじゃなくてミカンになる！」と宣言して、ミカンのポーズをとる子も現れたりと、鬼ごっこというよりも、おもしろいポーズをとって友だちにむいてもらうところに子どもたちのこだわりと楽しさがあるようです。子どもの発想から好きなように展開できる自由度の高いルール遊びが、4歳児らしい楽しさを引き出すのではないでしょうか。

友だちの思いを考え感じる話し合い

4歳児クラスの1月、子どもたちが鬼ごっこをしている時のできごとです。ひとりの子どもが「何もしてないのに碧くんがパンチしてきた」とM先生に訴えてきました。話を聞くと、その子がオニになって追いかけていて、碧くんにタッチしたところ、そのまま逃げていったので、「碧くんがオニだでー」と責めた状況でのことのようです。碧くんにも話を聞くと、オニになるのが「嫌だった」ということでした。

こんな時、大人はどのように対応したらいいのでしょうか。碧くんに「オニになるのが嫌だったんだね。でも、嫌な